

ビジネスをサイエンスする

2018

創立102年目の挑戦!



# 長野県赤穂高等学校 商業科通信

## vol.127

経済社会で役立つスキルを身につける

地域社会の問題を考え貢献する

困難な課題を突破する力を育てる

JFC 日本政策金融公庫

創造力無限大 第6回 高校生ビジネスプラン・グランプリ



サイトマップ

高校生ビジネスプラン・グランプリとは

応募について

過去の開催結果

先輩・先生の声

ビジネスプラン作成サポート



### 高校生ならではの 創造性あふれる ビジネスプランを 大募集

エントリー 2018年9月14日(金)  
締切

ビジネスプラン提出期限 2018年10月10日(水)

# 創造力無限大



商業科3年課題研究IIの21名は、  
日本政策金融公庫の特別授業を  
受講しました。

課題研究IIのうち「商業実務講座」では、この秋に日本政策金融公庫主催の高校生ビジネス・グランプリに応募を予定しており、地域の特徴を活かした新しいビジネスプラン作りを取り組んでいます。今回は公庫から先生を招いて、プラン作りにアドバイスをもらいました。

長野日報 8月29日(水)掲載

信濃毎日新聞 8月29日(水)掲載

## ビジネスプラン 作成をサポート 赤穂高商業科で出張授業

日本公庫



日本政策金融公庫北関東信越創業支援センター・伊那支店は28日、「ビジネスアイデアの発想法」と題した出張授業を赤穂高校(駒ヶ根市)で開いた。公庫主催の高校生対象ビジネスプラン・グランプリへの応募を予定する同校商

業科の3年生21人が受講。考案したプランをより良くしようと講師から助言を受けた。同公庫は若年層を対象とした起業家教育の一環で、同グランプリを2013年から開催。前回は全国385校から3247チームがエントリー

したという。同校が参加するのは2年目。昨年も商業科の生徒に対して「ビジネスプランの作成をサポートするために出張授業が開かれた。講師は公庫北関東信越創業支援センターの山口修平所長代理(32)と伊那支店の枝松辰義支店長(53)が務めた。今年は6グループが10月の書類選考に向けてプランを考案。夏の勉

強や仕事の効率を高める「涼しなる椅子」や電車の乗過ごしを防ぐ「アリの開発」などが上っている。山口所長代理は「現実と理想は一致しない。そのギャップを埋めるアイデアがビジネスになる」と助言。柴唯翔(18)はアイデアを出したが既にあったものばかりだった。新しいものを生み出すのは難しいが気づかなくなったときの達成感は素晴らしいと感じた。支店長(53)は「誰が使うかなど細かく考えることが大事だと分かった」と話していた。

## ビジネス案は 赤穂高生、知恵絞る 駒ヶ根 日本公庫が出張授業



駒ヶ根市の赤穂高校で28日、日本政策金融公庫の出張

授業があり、商業科3年生21人がビジネスプランを練

日本政策金融公庫の山口さん(左)にアイデアを語る赤穂高生をビジネスにできないか知恵を絞った。同公庫北関東信越創業支援センター(さいたま市)の山口修平さん(32)が班ごとにプランを聞き、「誰に向けてどこでやるかを絞ると新規性・独自性が出てくる」と助言した。暑い部屋でも体を冷やせる椅子の開発を考える班の宮林彩未さん(17)は「伊那市東春近川は「誰が使うかなど細かく考えることが大事だと分かった」と話していた。